

平成29年度富山県花のまちづくり推進モデル花壇概要

1. 趣 旨 花のまちづくりにおいて常にトップレベルの活動を維持している花壇に対して、他の模範となっていたことに期待し、「富山県花のまちづくり推進モデル花壇」として認定する

2. 概 要 ※写真は6/28(水)撮影

	<p>花壇の名称: 八尾園ふれあい花壇・にしやまの里花壇 管理者: 社会福祉法人 白皇山保護園 所在地: 富山市八尾町福島10</p> <p>「八尾園ふれあい花壇」はS字カーブに沿った花の道と、下部の花壇を組み合わせた複合花壇。秋にケヤキの落葉で作った腐葉土を活用して根張りの良い土壌作りがされている。花は主に、こぼれ種や昨年採取した種を発芽させコストの軽減をはかっている。緑主体の自然風な花壇に一年草を植え込むことで華やかな構成になっている。また、地域交流施設「にしやまの里」の花壇は、斜面を活かした高低差のある花壇となっている。</p>
	<p>花壇の名称: 四方こども園 管理者: 幼保連携型認定こども園 四方こども園 所在地: 富山市四方608番地1</p> <p>富山湾に面した四方という地域性を花壇に取入れ、子どもたちが中に入りたくするような工夫が随所に凝らされている。子どもたちが、広めにとった花壇の中の道を通りながら、花柄を摘んだり、家に持ち帰って飾るなどして草花にふれ合えるよう、子ども目線に沿った花壇づくりになっている。給食で使った野菜の切りくずや皮、花壇から出た花がらなどを材料にした堆肥作りをするなど、子供達への教育の場として、環境や安全にも配慮した花壇づくりが実施されている。</p>
	<p>花壇の名称: 花のある場所 管理者: 寺崎啓乃 所在地: 富山市願海寺661 願海寺交差点付近</p> <p>県道に面している場所にあり、季節季節に通行する多くの人々が楽しめるよう数多くの花が植栽されている。多種多様の宿根草に加え、こぼれ種などを活用し、長期間次々と花が咲くよう工夫されて花数も多く色彩豊かな花壇となっている。長年の土作りの結果、花の生育が非常に良い状態で管理されており、宿根草が中心の花壇は、配置(色)がマンネリになりがちであるが、毎年、秋から冬に株分けを兼ねての移植で花壇全体に変化を出している。またそれが株のリフレッシュに繋がりが極めて活力のある花壇となっている。</p>
	<p>花壇の名称: 歌の森運動公園西側広場花壇 管理者: 小杉花作り同好会 所在地: 射水市戸破1441-1 歌の森運動公園西側</p> <p>中央図書館、文化ホールなど公共施設が集中している地域の運動公園内にある花壇で、訪れる人々が花壇に目をやりながら四季折々の花々を楽しんでおり、安らぎの場、語らいの場、憩いの場となっている。今年のテーマは「かがやき花壇」で、調和のとれた美しいハーモニーを奏でる花壇をめざして取り組んでいる。花壇には高低差があり、それぞれ視線に合った花を植栽している。多くの種類で構成された花壇は、花の特性や活用法を学ぶにはとても参考になる。同好会の会員は、旧小杉町の各自治会からの代表者などにより構成され、この花壇を「花のまちづくり」の技術交流の拠点と位置づけ、地元フィードバックしている。</p>
	<p>花壇の名称: 浅井さんの花壇 管理者: 浅井ひとみ 所在地: 大門町下条838 農業構造改善センター前</p> <p>農村地帯の集落にある花壇で、道路に面した個人宅前から玄関先までに、宿根草、山野草、花木などが植栽されており、周囲の緑と調和して心和む花壇になるよう取り組んでいる。宿根草とこぼれ種を活用した結果、経費の節減につながっており、個人宅の庭園に寄り添いながら、心あたたまる癒やしの場所になっている。季節により大きく変化する色彩も楽しめる花壇である。</p>



花壇の名称：高波花街道

管理者：高波花と緑の推進協議会

所在地：砺波市高波 砺波市高波体育館付近山王川沿い

散居村地区に位置し、のどかな田園風景と共に通勤・通学・そして散歩道として親しまれている花の道である。昔からなじみの深い宿根草をふんだんに使い、色相・高低などに配慮しており、13個の柵花壇と30余りの大型樽プランターで構成している。

背景の田園と相まって、それぞれの花壇と樽プランター毎に楽しめるように考えてあり、色彩も豊かに感じられる。一年草や宿根草も含め花壇毎に異なる種類で工夫がみられ、単調になりがちなボーダー花壇に変化をあたえている。

頭取・グリーンキーパー、自治会協力員等、地域一体となった花づくりは、県内でも指折りの組織力で、花のまちづくり運動の模範である。



花壇の名称：キッチンガーデニング花壇

管理者：宮野裕子

所在地：砺波市高波1906

市道に接した宅道沿いに自家菜園と花壇があり、自宅前には田ころがし等を使った花飾りなどを配して、地域性を活かした花壇である。

宿根草主体でありながら、やさしい色の花々が植栽してある。左右で異なるデザインはとても斬新であり、野菜畑と花壇との調和を楽しめる散居村にマッチした花壇となっている。毎年、晩秋から翌年の苗の準備をするなど、計画的に苗づくりも行われている。